

# 永代祠堂経会御案内

拝啓 紫陽花が鮮やかに周りを映す季節になりました。

皆様にはいかがお過ごしでしょうか。日頃は何かとお世話になりまことにありがとうございます。

さて、今年の永代祠堂経会は、今なお新型コロナウイルス感染が広まる中ではあります、門信徒追悼の法要、読経、インターネットによるリモート法話を実施してまいりたいと思います。富山県感染拡大特別警報、またはステージ3の予防対策をされております、皆様におかれましてはご理解、ご協力の上、参詣いただきたく、案内申しあげます。

やむをえず参詣できないときは、御自宅のお内仏にてお念仏のご縁をいただければと思います。

六月十五日(火) 午前 九時半 門信徒追悼法要  
法名読み上げ 読経

午後 一時半 読経 法話  
十五日(水) 午前 九時半 読経 法話  
午後 一時半 読経 法話

ズームによるインターネットリモート法話

講師 滋賀県大津市玄照寺住職 瓜生 崇師  
講題 「罪人(阿闍世)のすくいー慚愧のとき」



祠堂経の内容はこれまで通り真敬寺ホームページでご覧になれるよう後日、配信いたします。

行事運営にご協力下さい、蠟燭代 永代祠堂経志を承つております、お願ひいたします。

いただきましたお金は真敬寺行事の運営、本堂の莊嚴、講師への御礼などの費用に使わせていただいております、何卒皆様のご懇念をいただきたくお願い申しあげます。

令和三年六月

竹内 真敬寺

## 講題 「阿闍世のすくい」への願い

現代における人間関係の回復を願い、なおも「口ナ禍に人々が離ればなれになる中で、人と人との関わりの感動を経典観無量寿經や法華經、親鸞聖人は、教行信証信巻を通して人と生まれてきた感動を表されておられる」と願います。

阿闍世がしてしまったことへの後悔と、その後の懺悔の生活へと移行していく過程を瓜生さんの言葉で、いつものように丁寧にお話してもらいながら、自らが今ここにある生への苦しみ、悲しみ、喜びが確かめられる機会になればと思います。

阿闍世のようにそのままでは気づかなかつた、頭の下がらなかつたものが身の事実に気づき、頭が下がることですくわれていくことを聞きたいと思います。

### 濫觴(らんじょう)

あるとこうに、たまたま一人の聞法者もんぼうしゃ(仏さまの教えを聞き生活において受けとめていく人)が生まれました。

その人の生き様は、周りに及び、ついには集落全体が教えを喜ぶ里となつたのです。その人々は考えました。「この大切な教えを私たちの代だけで潰えさせてはならない」と。そこで人々は、村の中から家を選び、教えを聞く場所のお給仕全般お莊嚴や管理保持を託しました。それが真宗のお寺の濫觴らんじょう(はじまり)おこり)です。

真宗のお寺は、その原点に教えを聞く場」=「教えが伝わる場」ということと、関わるさまざま人々によって創られる「共創」、そして「地域社会とのつながり」をもつて成り立つてきたものでした。現代においてもその理念(願い)は何ら変わるものではありません 「同朋新聞五月号十一頁」

仏法聴聞の機会に日々出遇いえない時代ですが、今年の現状を鑑みると、集う場と接する時が制限されるやむを得ない事態になりました。

この度のことと、新たな時代に向かっているようにも思います。しかし、いつの時代におきましても、人と人との関係は、人や天に恥るはじ(慚愧ざんき)の心も無いものが、その自覚に立つてはじめて人間性の回復につながることと聞いております。

今は感染拡大が終息し、再び再会できることを心から願うばかりです。